月桃（げっとう）通信 No28　2021 年 12 月 16 日

軍需産業から平和産業へ　武器は捨てよう　　石原艶子

イラスト：大城旋律（孫）

〇正義を洪水のように、恵みの業を大河のように流れさせよ

（旧約聖書　アモス５：24）

〇イエスは言われた「剣をさやに納めなさい、剣を取る者は剣で滅びる

（新約聖書　マタイ 26：52）

〇彼らは「戦闘を建設に弾薬を薬品に」という呼びかけに心から共鳴した

（ペシャワール会　中村哲）

資本主義において私が一番恐ろしいと思うことは、軍需産業（死の商人）によって成り立っているという一点に尽きます。世界が平和になる為には単純に軍需産業（死の商人）を止めることだと思いますが、これは不可能に近い困難な事です。何故なら人間の本性の奥深くに常に強者となって人を支配したい欲望という罪があるからです。然し地球というひとつの星に共存共栄する人類にとってはこれは永遠の課題であり、成しとげねばならない人類の最終目標だと思います。神に愛され神に似せて造られた人間だから、戦争はしない世界を造ることが出来ると私は信じます。私たちは平和をつくる一人一人になりましょう。今、世界は軍需産業によって栄え、国力を強大にした国が覇権を持ち世界を支配して、常に戦争への危機を生み出しています。軍需産業は戦争によって利益を得るために常に敵を作り戦争状態を作り出そうとします。沖縄の米軍基地の実弾訓練場からは実弾の爆発音が聞こえ人々の生活を脅かしています。人殺しの訓練をして軍需品を消費しなくてはならないからです。戦後日本が復興したのは、朝鮮戦争特需による軍事産業が利益を得たことが復興を早めました。結局日本は人殺しの産業から離れることは出来ませんでした。皮肉なことに植民地として痛め続けた朝鮮半島の人民の犠牲の上に復興したのでした。そして現在に至るまで日本はアメリカに従属の軍事協力国家として日米安保の傘の下に軍事力強化への道をひた走りに走って、戦争できる国へと突き進んでいます。憲法９条で、日本国民は戦争を放棄する、戦力は保持しないと宣言しました。私たち日本国民の一人一人は、この９条の約束を今、どう考えているのでしょうか。国民一人一人が神から問われているのです。軍事費は６兆円、そしていずれは GDP の 2%に当る 12 兆円を目標としています。この先にあるものは何ですか。若者達は何を見ていますか。人殺しのための軍事費拡大は戦争へとつながっていきます。「武器は捨てよう」と真正面から割引なしに発言したら結局は議論の先には日米安保が必要、抑止力のため軍事力は必要などということになり馬鹿者扱いされるでしょう。それでも私は「武器を持つ者は武器で滅びる」という人類史上の真実を語ります。人は状況により、大衆心理に流され簡単に変わってしまう弱い弱い存在でもあります。だからこそ「殺してはならない」と命じた人類への神の愛を裏切ってはならないことを心に堅く誓って武器を持たない平和を祈り求め叫び続けていきたいと思います。

〈私が考えた平和外交〉

〇韓国が求めている朝鮮戦争の終戦宣言に今すぐ調印すること。

〇核兵器禁止条約に調印すること。

〇中国での冬季オリンピックに対して政治的ボイコットをやめて対話の機会として信頼関係を作ること。

〇日中友好平和条約を堅持し、日本独自の日中関係を大切にすること。
〇朝鮮への植民地支配によって生じた慰安婦問題、徴用工問題などに対して真摯に向き合い謝罪して、愛のある人間らしい関係を築くこと。
〇アメリカと向き合い国民の立場に立って、否は否とはっきり物を言える対等な関係を築くこと。
〇沖縄県民と向き合い、ウソ偽り、隠ぺいのない対話をすること。
平和を創るのは日本政府ではなく、国民一人一人だということを決して忘れず、国民として賢くなって国民としての責任を果たすこと。悪い政治を変えることが出来るのは私たち国民一人一人であることを決して忘れてはいけない。憲法９条が「日本国民は・・・・」で始っていることを忘れてはいけない。憲法９条の改悪を許さないで平和を守れるかどうかは国民一人一人の肩にかかっているのです。
〇私たちはどう生きるべきなのでしょう。私はアフガンでの中村哲さんの活動に学ぶ他にはないと思います。アフガンの人々は**「戦闘を建設に、弾丸を薬品に」**という生き方を実践しました。私たちが今出来ることはこれに尽きるのです。さまざまな異論が満ちていたとしても、殺されそうになっても、武器を捨てて、中村哲さんのようにそれぞれの与えられた場所で愛を持って生き、行うところにこそ人類の希望が見えてきます。**「他人様を助けることは何かを捨てることである。与えるとは自分の何かを失うことである。」「自衛隊派遣は有害無益」中村哲**
沖縄から・・・。「今朝はずいぶん早くから飛んでいるね」こんな会話から一日が始る日があります。カデナ基地周辺の人達、飛行ルートの真下で暮す人達の悲鳴が聞こえてきます。夜にはまた「今日はずい分遅くまで飛ぶんだね」と話す日もあります。戦後 76 年、沖縄に静かな空はありません。宜野湾の保育所では頭上をオスプレイが飛び交って、子供達は落下物を恐れ日々不安と恐怖の中に置かれています。防衛省に飛行中止を申請しても一切無視の日常となっています。
◎水の汚染・・・・地球上に存在しない有害な化学物質 PFAS（有機窒素化合物）に汚染された水を長年何も知らされずに飲んでいた事実に衝撃を受けています。８月にはうるま市、米陸軍消火用貯水槽からは PFAS 汚染水が流出しました。その濃度が８万 ng/ℓあり、暫定指針値 50ng/ℓの 1600 倍という殺人的数値であることが分りました。米・国・県の３者は公表せず隠ぺいしていましたが、最近マスコミによって暴露。汚染水は川へ、海へと流れ、魚介類や海藻への影響が懸念されます。河口に堆積した汚泥は土として農地へと還元され、沖縄の大地を汚し続けています。昔の人々の生活を豊かに潤していた湧水も今では使用禁止の汚染水となってしまいました。私達住民の命と健康を脅かす軍事基地からの汚染を絶対に許すことは出来ません。５日に現場での抗議集会をしました。
《生命の営みは水の介在なしに、起こりえない。水は人間を律する神の手である。》：中村哲
◎玉城デニー知事は「辺野古建設変更不承認」としました。私達は３日、夕方６時から県庁前広場に 1000 人が結集して、知事の不承認を支持する県民集会を持ち、国際通りを２キロほどデモ行進しました。３台の右翼の車が終始妨害に入りましたが私たちは黙々と夜の通りを歩きました。警察官が老人の歩きを心配し、「大丈夫ですか」と声をかけ守っていてくれました。右翼の人達は罵声を浴びせ「おまえら馬鹿か、中国が攻めてきたらどうするのか、おまえらなんかこの国から出ていけ」と叫んでいました。人にはさまざまな正義と生き甲斐があるものですが、人はいつか変わることが出来る存在でもあります。足が痛くても歩き通すことが出来て感謝でした。
◎政府は知事の不承認に対して、日米同盟の抑止力の維持と普天間基地の危険性除去を理由に「辺野古が唯

一の解決策」と明言し譲らない構えです。政府は対抗措置として前回と同様に本来は私人を救済するための制度である不服審査法を乱用して新たな法廷闘争へと持ち込み、沖縄をまたもや踏みつけようとしています。沖縄には地方自治も民主主義も存在しないのです。あるものは唯、日米安保の下、沖縄は犠牲にしてもいいということがまかり通っていることです。国は 2015 年には軟弱地盤の存在を把握していたことが報じられました。岸田政権は「米側と協議した上で工事を進めている」と述べ強行姿勢を貫いてはいますが、本当に 90 メートルの軟弱地盤の埋め立て工事は 12 年経ても完成するのか見通しはなく、私たちには理解不能です。何かが隠ぺいされているのだと思います。嘘と隠ぺいは米軍と防衛省の常とう手段です。

平和の危機、琉球孤の要塞化

安倍、菅政権の９年間、この国は、日米同盟で中国と軍事力で対抗する方向に舵を切って、日本を戦争できる国にしようとしてきました。そして岸田政権もこの路線を引き継ぎ、より強行になって憲法改悪を急いでいます。中国には日本攻撃の動きなど全くないにもかかわらず、敵基地攻撃能力の言葉まで出して、中国脅威論をあおり、南西諸島（私達うるまの勝連分屯地も含まれています）への地対艦、地対空ミサイル部隊の配備を進めています。アメリカは海洋圧力戦略（2019 年）を対中国戦略として打ち出しています。日米安保は日本を守るためではなくアメリカの戦略にとり込まれ、米国の覇権、維持のために同盟国日本は利用されていくのです。沖縄は対中国への攻撃拠点とされて最悪戦場となる危険も想定されています。

〇自民党総裁選の出馬記者会見で高市早苗（政調会長）はこう語っています。「新たな戦争への対応がこれから出てくると思います。ゲームチェンジャーとなるのは衛星、サイバー、そして電磁波、それから無人機、極超音速兵器でございます。これはもう極超音速兵器を撃たれてしまったら、日本では防衛する術が現在ございません。しかしながら迅速に敵基地を無力化することを早くできた国が、自分の国を守れるのだと思います。これは安倍内閣の時は敵基地先制攻撃と呼ばれていましたが、私は、敵基地の迅速な無力化と申し上げさせていただきます。」こんな恐ろしいことを平然と語る政治家によって岸田政権は成り立っていると思うと恐ろしさに震えます。この先にあるものは、国民をどん底に突き落とす滅びの道です。

日本全体の沖縄化・・・・本土でも米軍基地が強化され、オスプレイも飛び交い、日本全体が 80 年前の日米開戦時前夜のような様相を呈しています。国民は何故このような自民党政権を圧倒的多数が支持するのでしょうか。政治を変えることが出来るのは私たち国民一人一人なのです。私たちは感性をとぎすまして軍事に関してのどんな些細なことも見逃さず、政府を見張っていかなくてはなりません。そして絶対に戦争を起こさないために連帯していきましょう。「日中平和友好条約」を堅持して国民相互の交流を大切にしていきましょう。

平和は大地の声を聞くことから始る（艶子）

世界人類宣言・・・もう戦争はしません、実現を祈り続けます。（艶子）

《お知らせ》辺野古の闘いを支援してのご協力を感謝致します。

つながる力うつぐみの会（大野悦子）、あみの会（糸リサイクル作品：山田博子）**両窓口：石原艶子**

※リサイクル着物、布、糸を提供して下さる方は下記に連絡下さい。

〈連絡先〉〒904-1115　うるま市石川伊波　1180-5　石原艶子

自宅：098-964-3237　　携帯：090-4471-1942　　Email：yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp

〈振込先〉ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ